

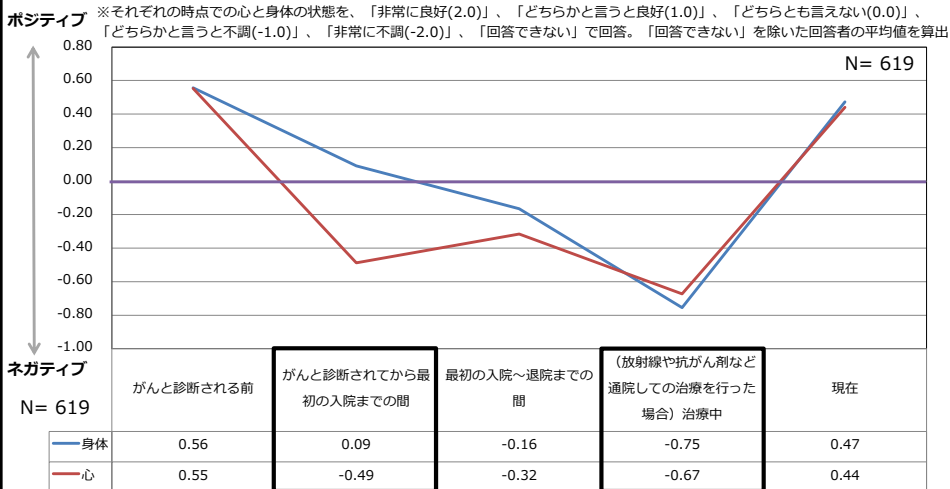
がん経験者の 心の変化に関する調査

- 回答者：働き盛りのがん経験者（59歳以下）
- サンプル数：619名
- 調査方法：インターネット調査
- 調査実施期間：2013年12月13日(金)～12月29日(日)
- 割付条件：
 - ① 男性：女性 - 33：67
 - ② がんと診断された時の職業の有無 - 77：23
- 実施主催：アフラック
- 実施機関：株式会社 キャンサーズキャン
- 調査協力：キャンサー・ソリューションズ 株式会社

1

心の状態の 変化

がん経験者の心と身体の状態の変化



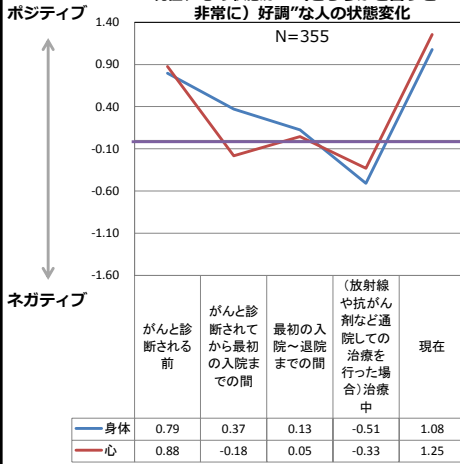
診断から入院までの間は、身体の状態は良好にもかかわらず、心の状態は大きくストレスを受ける。放射線や抗がん剤治療を行った場合、心身共にもっともストレスを受けるのはその時期。しかし、多くの場合、“現在”は身体の状態・心の状態共に、診断前に近いレベルまで回復している。

2

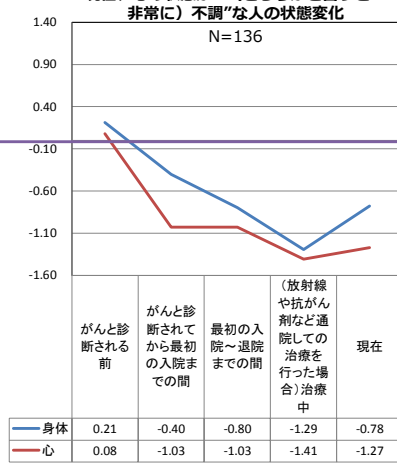
“好調”な人と
“不調”な人

がん経験者の心と身体の状態の変化 2つのグループ

現在、心の状態が“(どちらかと言うと・非常に)好調”な人の状態変化
N=355



現在、心の状態が“(どちらかと言うと・非常に)不調”な人の状態変化
N=136



現在、心の状態が“好調”なグループは、落ち込んだタイミングもあるが、その後大きく回復。逆に、“不調”なグループは、がんが診断される前からポジティブ度が低く、心の状態はずっと下降を続けている。

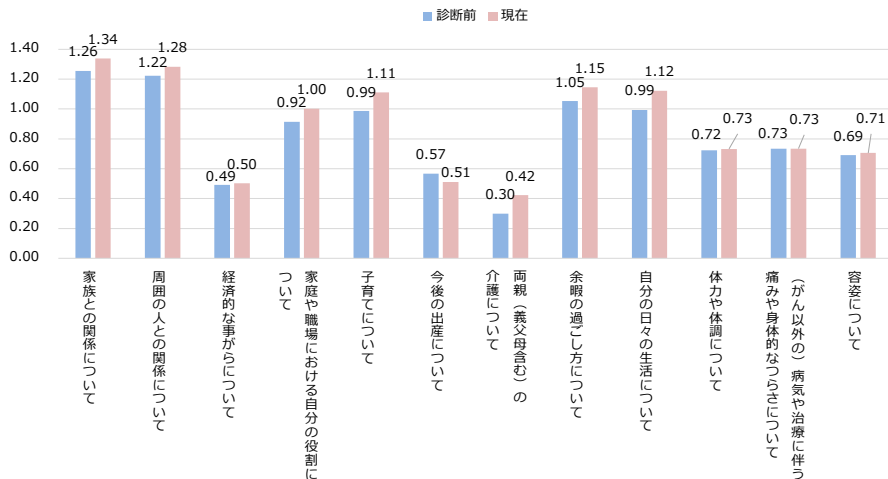
“好調”な人と
“不調”な人

“現在”と“診断前”の生活の状況 –“好調”な人-

現在、心の状態が“(どちらかと言うと・非常に)好調”な人

N=355

※それぞれの時点での状況について、「非常に良好、あるいはまったく不安がない(2.0)」、「まあ良好、あるいはそれほど不安がない(1.0)」、「どちらとも言えない(0.0)」、「やや不調、あるいは多少不安がある(-1.0)」、「非常に不調、あるいは非常に不安がある(-2.0)」、「回答できない」で回答。「回答できない」を除いた回答者の平均値を算出

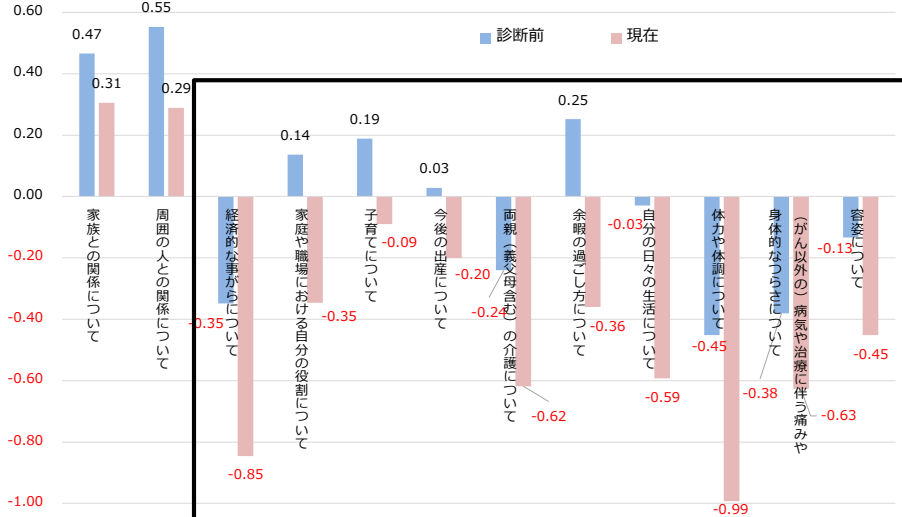


“好調”な人と
“不調”な人

“現在”と“診断前”の生活の状況 –“不調”な人-

現在、心の状態が“（どちらかと言うと・非常に）不調”な人 N=136

※それぞれの時点での状況について、「非常に良好、あるいはまったく不安がない(2.0)」、「まあ良好、あるいはそれほど不安がない(1.0)」、「どちらとも言えない(0.0)」、「やや不調、あるいは多少不安がある(-1.0)」、「非常に不調、あるいは非常に不安がある(-2.0)」、「回答できない」で回答。「回答できない」を除いた回答者の平均値を算出

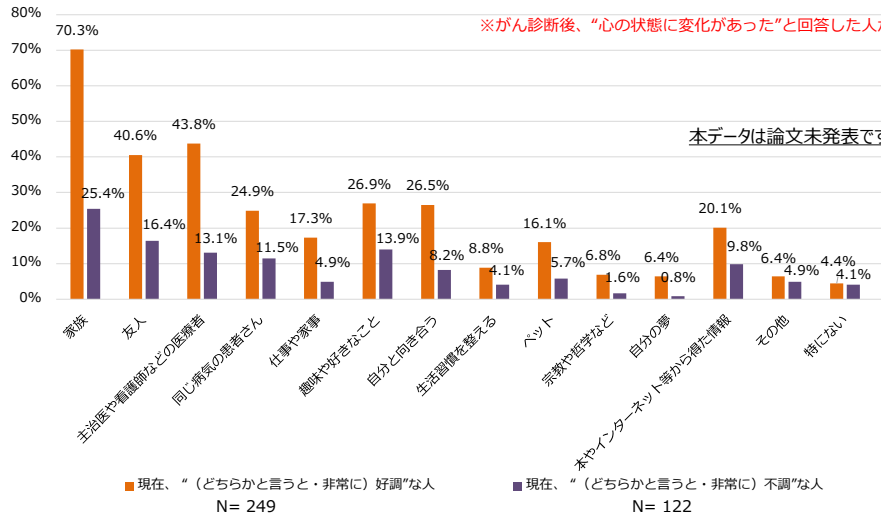


5

“好調”な人と
“不調”な人

心の状態が好転した際に支えになったり助けになったこと

※がん診断後、“心の状態に変化があった”と回答した人が対象



本データは論文未発表です

現在、心の状態が好調な人は、家族の支えはもちろんのこと、その他にも心が好転するきっかけや助けが多岐にわたっており、平均3.1個の支えがあったと回答。一方で、不調なグループにおける支えは、平均1.2個とのことだった。

6